

Fujizack^{フジザック} 通信 13



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。

【第13号】令和3年6月24日 文責：校長

富士山頂付近の残雪がだいぶ少なくなり、梅雨の時季に入ってきました。

今年は、九州地方の梅雨入りが例年よりもかなり早かったのですが、この地域も同じように早いのではないかと想定していたのですが、関東甲信地方は例年より若干遅い梅雨入りです。

これから約1か月間は、降雨のために肌寒い日も多くなることでしょう。一方で、熱中症に注意しなければならないほどの日照りの日もあります。気候や気温の変化が激しく、心身ともに調子を崩しやすい時季ですので、より丁寧な健康観察と健康管理が必要になります。

今回の通信では、「**交流及び共同学習**」について情報を提供します。

テレビや新聞でも取り上げていただいたところですが、6月16日(水)に本校中学部と河口湖北中学校との学校間の交流を行いました。今回の交流は、新型コロナウイルス感染防止のため、対面して直接やりとりする交流ではなく、オンラインを使ったモニター画面越しの交流でした。



中学部では、クラスごとに河口湖北中学校とネットをつなぎ、5つのオンライン交流の会場を設けました。それぞれの場で、自己紹介やゲームなどを楽しむ両校の生徒には、互いに尊重し認め合っている様子が感じられ、とても実りのあるひとときでした。交流先の河口湖北中学校の小林校長先生とは、今回の交流活動の成果を共有すると共に、次回への期待を膨らませたところです。

文部科学省は、「我が国では、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています。(中略)交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶなど、大きな意義を有するものです。」(「交流及び共同学習ガイド」から抜粋)と示し、全ての学校において「交流及び共同学習」を推進しています。「交流及び共同学習」は、特別支援学校の児童生徒だけでなく、小・中学校等の児童生徒にとっても、欠かせない重要な教育活動とすることです。

「交流及び共同学習」という教育活動は、「種」のような存在ではないかと思っています。在学中に一粒ずつ丁寧に植えた種が、数年後にきれいな花を咲かせたり大きな実を付けたり……。例えば、卒業して5年後にコンビニで買った時に、あるいは10年後にショッピングセンターですれちがった時に、「〇〇君だよな。」と互いに声をかけ合えたら素敵ですね。そして、そのような生活を送ることができる地域社会は、きっと全ての人のために豊かなコミュニティーではないでしょうか。児童生徒の自立と社会参加をめざす本校の重要な教育活動のひとつとして、今後も交流及び共同学習の取組を推進していく予定です。

「フジザック通信第1号」で、雨が上がるのを待ちながら私が口ずさむ歌「にじ」を紹介しました。これとは別に、雨の日について口に出るのが「あめふりくまのこ」です。とてもかわいらしい歌詞に導かれて情景が一気に浮かび上がり、ほのぼのとした温かい気分になります。(「熊の子は、餌である魚を狙っているだけだ」と、夢を壊すようなことは考えないようにしています)

ちなみに、雨にまつわる歌では、「雨(森高千里)」「銀の雨(松山千春)」「裏切りの街角(甲斐バンド)」などを好んで聞いていたことが思い出されます。おやおや、世代がバレてしまいますね……。